

浅大腿動脈慢性完全閉塞病変に対し、対側大腿動脈一同側膝窩動脈穿刺による両方向アプローチにてP T A・ステント留置を施行した症例及び、64列マルチスライスC Tによる遠隔期標価

演者名 : 循環器科 中田 晃孝(なката あきたか)

共同演者 : 佐藤 政弥(さとう まさや)

病医院名 : 医療法人社団 松弘会 三愛病院

医会名 : 浦和医師会

当院では、浅大腿動脈(S F A)慢性完全閉塞病変(C T O)に対し、対側大腿動脈穿刺による一方向性アプローチにてP T Aを行っているが、ワイヤークロス不成功例に対して、上腕(又は、対側大腿)一膝窩動脈穿刺による両方向性アプローチにより、P T Aステント留置成功に導いている。そのうちの1例症例提示をする。

62歳、男性、主訴は間歇跛行、右下肢のしびれ、右下腿がつる。A B Iは、0.62である。

右S F A起始部から約26cmに及ぶC T Oに対し、対側大腿動脈アプローチが不成功に終わり、後日膝窩動脈との両方向性アプローチにより、E a s y W a l l s t e n t留置に成功した。また同症例を含むS F AのC T O病変にE a s y W a l l s t e n tを留置した症例に対し、慢性期(6ヶ月~1年)に64列マルチスライスC Tを施行し、遠隔期標価を行った。